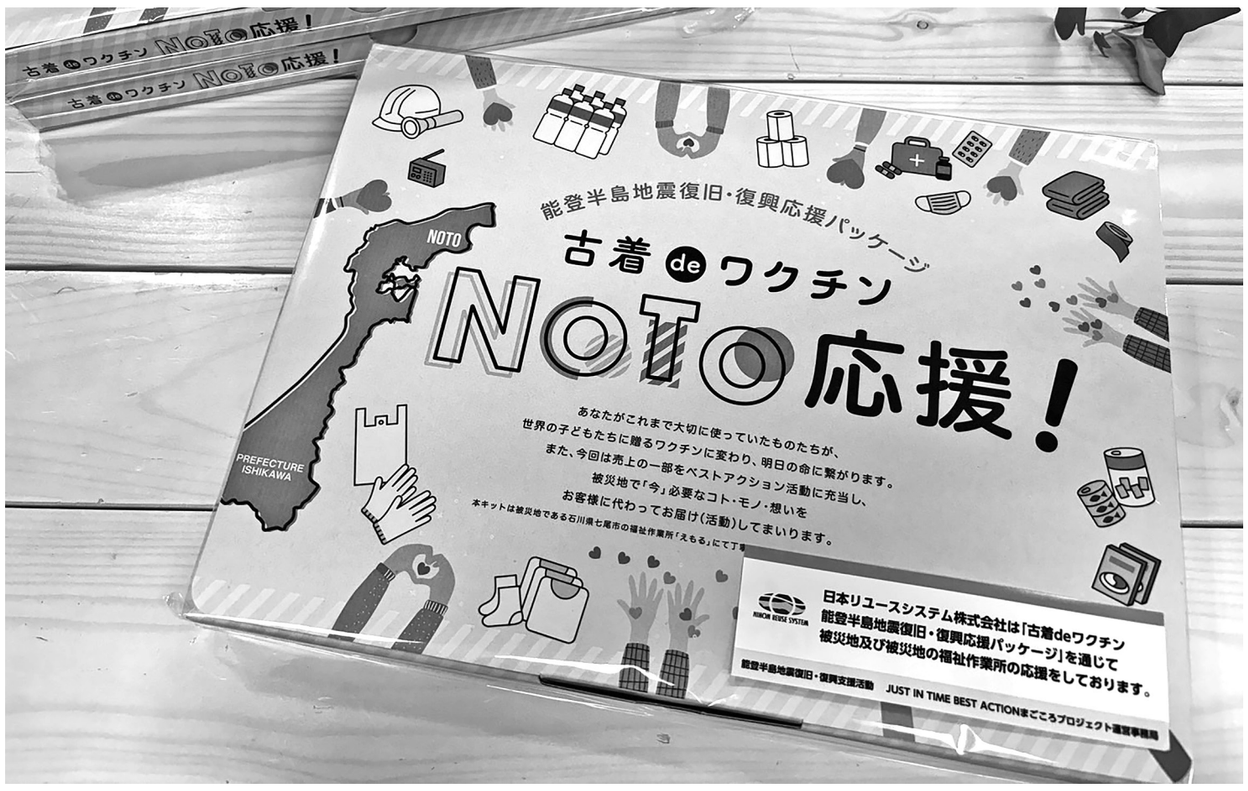
能登被災地支援

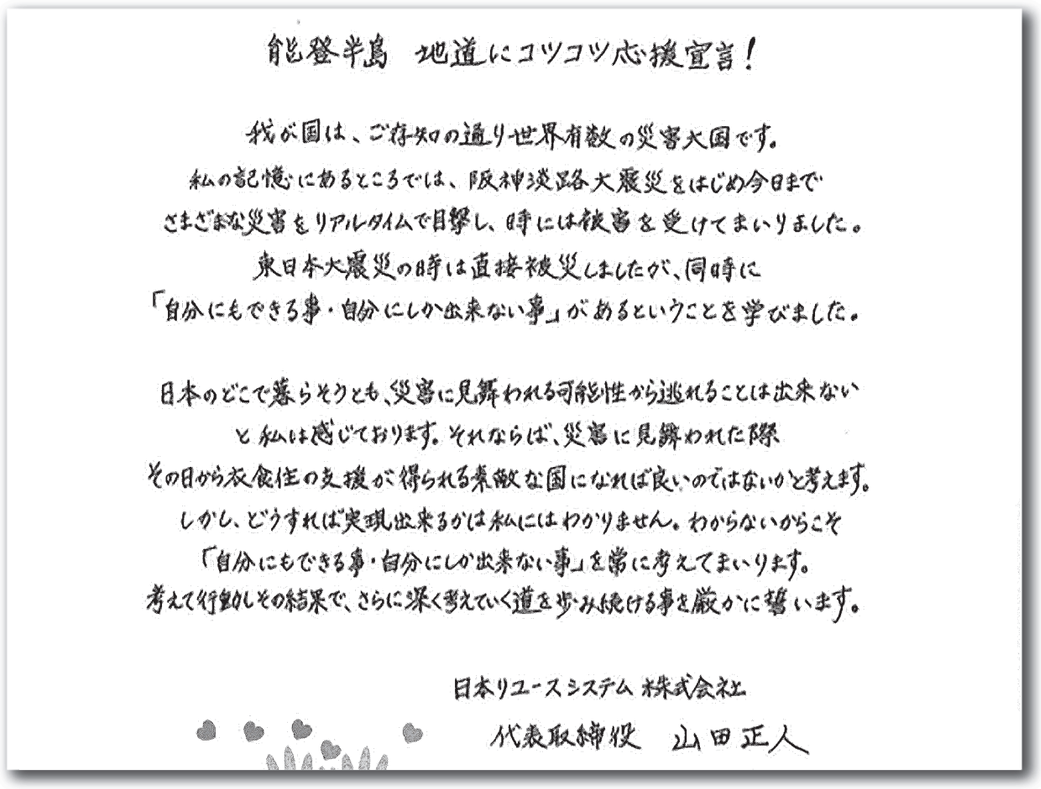
「JUST IN TIME BEST ACTION まごころプロジェクト」を販売

日本リユースシステム

被災地支援を通じて企業のSDGs活動を実現



「古着 de ワクチン　能登応援パッケージ」を発売



能登半島　地道にコツコツ応援宣言！

我が国は、ご存知の通り世界有数の災害大国です。
私の記憶にあるところでは、阪神淡路大震災をはじめ今日まで
さまざまな災害をリアルタイムで目撃し、時には被害を受けてまいりました。
東日本大震災の時は直接被災しましたが、同時に
「自分にもできる事・自分にしか出来ない事」があるということを学びました。

日本のどこで暮らそうとも、災害に見舞われる可能性から逃れることは出来ない
と私は感じております。それならば、災害に見舞われた際
その日から衣食住の支援が得られる素敵な国になれば良いのではないかと考えます。
しかし、どうすれば実現出来るかは私にはわかりません。わからないからこそ
「自分にもできる事・自分にしか出来ない事」を常に考えてまいります。
考えて行動しその結果で、さらに深く考えていく道を歩み続ける事を厳かに誓います。

日本リユースシステム株式会社
代表取締役　山田正人

山田社長の直筆メッセージ

今年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」から間もなく1年が経過するが、今もなお被災地では支援を必要とする人々が多数存在している。こうした中、日本リユースシステム（本社・東京都港区、山田正人代表取締役）は、被災地支援と企業SDGs活動を行うことが可能な法人専用SDGsソリューションパッケージ「JUST IN TIME BEST ACTION まごころプロジェクト」を販売している。これは、同社が長年取り組んでいる「古着deワクチン」の取り組みを活用した法人専用パッケージで、顧客が購入した「古着deワクチン能登半島地震復旧・復興応援パッケージ」の売上の一部を、ベストアクションを通して復旧・復興活動に充当させてるもの。リアルタイムで被災地・被災者が困っている「モノやコト」そして、顧客の被災地への復旧・復興を願う想いを届けるというプロジェクトだ。広告宣伝費＝損金として処理できるので、企業が利用しやすくなっているのも特徴だ。

辻本本部長

「JUST IN TIME BEST ACTION まごころプロジェクト」は、企業・団体が能登半島地震被災地支援を通してSDGs活動に参加でき、広告宣伝費（損金）として処理できる企業等が利用しやすい設計のSDGsソリューションパッケージ。被災地支援を通して、企業の社会的地位向上をはじめさまざまなメリットが生まれる。

同社の辻本真子営業本部長は、「震災から間もなく1年を迎えるが依然復旧・復興の道半ばで苦しんでいる被災地に対し、企業として何かしたいが何が効果的な支援策なのかを模索している企業、利益が出ていて社会に還元したいと考えている企業にぜひこの応援パッケージを活用してほしい。それによって復旧・復興に向けて取り組む団体等に直接支援することができる上、SDGs活動として能登の被災地を支援している企業ということで社会的地位向上にもつながる。また、損金として処理できるということで、企業としても非常に利用しやすい商品になっていると思う」と話す。

今回のパッケージの根幹となっているのは、同社の代表的なサービスである「古着deワクチン」。2010年から開始し、14年目となった同サービスはもともと個人を対象に発売したもので、家庭等で不要になった衣類や服飾雑貨を捨てずにリユースすることができる「お片付けサービス」で、不要となった衣類が海外で再利用されるのに加え、ポリオワクチンが開発途上国の子供たちに寄付される仕組みとなっている。現在は月間約3万人の個人顧客が利用している。

個人への好評を受け、企業からも「このパッケージを使って社会貢献したい」という声が強くなったことから、2021年からは古着deワクチンの企業・団体向けである「まごころプロジェクト」の取り扱いを開始。企業向けについては、認定証や感謝状、衣類の輸出先であるカンボジアやミャンマーから企業ロゴが入ったフィリップなどが進呈されるオプションを付けた。現在累計約4千社が利用している。

企業向けパッケージも好評を得ていたところで今年1月1日に能登半島地震が発生。「このパッケージを活用して何か被災地の役に立てないか」という同社の山田社長の強い思いから誕生したのが、今回の商品。まごころプロジェクトと能登半島地震被災地の復興支援等に取り組む「JUST IN TIME BEST ACTION」の活動を連携させ、能登半島の被災地復興支援に特化した新たな商品として取り扱いを開始した。パッケージの製作は、地震で大きな被害を受けた就労支援B型作業所「えもる」に依頼している。法人向けに先駆けて、個人向けの「古着deワクチン　能登応援パッケージ」も発売している。

活動を行う「JUST IN TIME BEST ACTION」は山田社長が代表を務め、提携団体は災害NGO「結」、社会福祉法人「東京都共同募金会」、一般社団法人「障がい者アート協会」、日本リユースシステム、トレーニングジムBelami産トレスタジオMILK、石川県七尾市就労支援B型作業所「えもる」、千葉県君津市就労支援B型作業所「約束の樹」の7団体で構成。能登半島地震発生の翌月から物資支援や寄付、能登でのイベント開催などの活動を行って来た。

そうした活動の一環として、日本リユースシステムが販売を行う法人専用パッケージ「JUST IN TIME BEST ACTION まごころプロジェクトプラン」はAプラン（1000万円）、Bプラン（300万円）、Cプラン（500万円）の3つを用意。利用するメリットとしては、①被災地支援企業として社会的評価の向上②SDGs活動をする企業として顧客やステークホルダーにアプローチすることができる③全額損金（広告宣伝費）で処理することが可能④古着deワクチン能登半島地震復旧・復興応援パッケージを通して、社内SDGs活動により従業員の意識向上・理解促進につながりさらに同パッケージを取引先企業や顧客へ配布することで被災地支援企業として社会的認知を得ることができる――といったことが挙げられる。

辻本氏は、「日本は毎年のようにどこかで自然災害が発生しているので、起きた時に協力し合って何かできる体制を整えておく必要があるという山田社長の想いからBEST ACTION事業がスタートした。これまでも個社で東日本大震災の被災地で支援活動を行ったり、新型コロナウイルス禍では医療従事者にマスクを届けたりしていたが、1社の力では限界があるので賛同者を募ってアクションを起こしたのが今回の活動だ。1月1日に起こった能登半島地震からまもなく一年が経とうとしているが、まだまだ復旧・復興とはかけ離れた現実が多くある。私たちは事業を通して、被災地の皆さまが日常を取り戻せるよう常識にとらわれずさまざまな形の支援を継続して行っていく。被災地支援の趣旨にご賛同いただける企業様からの参加をお待ちしている」と話している。

各プランの内容

● A プラン　1,000,000 円（税込 1,100,000 円）

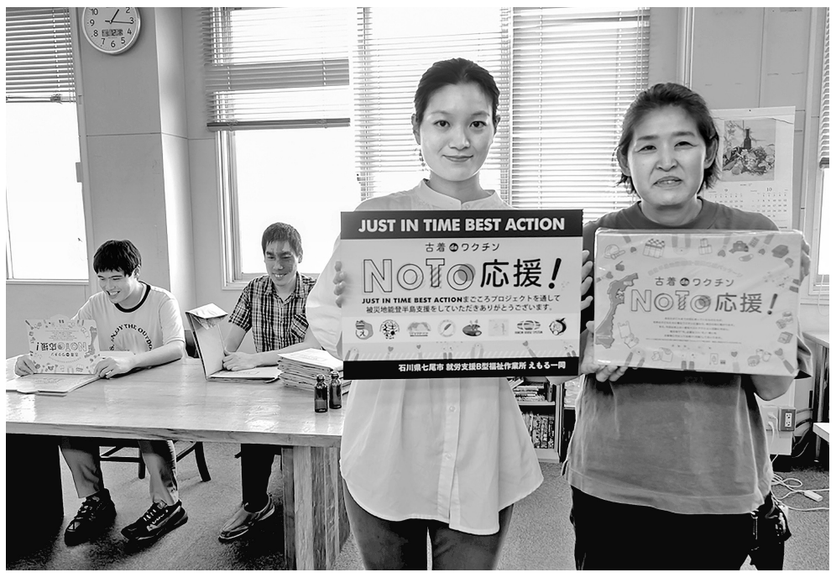
★能登支援企業企業名入り認定書
★公式ロゴフリップ写真データ　（２種類①災害支援 NGO より②被災地福祉作業所より）
★古着 de ワクチン能登応援パッケージ 30 キット　★キット製作福祉事業所（えもる）よりお礼状

● B プラン　3,000,000 円（税込 3,300,000 円）

★千羽復興応援ツール〈鶴〉福祉作業所へ贈呈　★能登支援企業企業名入り認定書
★公式ロゴフリップ写真データ　（２種類①災害支援 NGO より②被災地福祉作業所より）
★古着 de ワクチン能登応援パッケージ 30 キット　★キット製作福祉事業所（えもる）よりお礼状

● C プラン　5,000,000 円（税込 5,500,000 円）

★能登支援企業企業名入り認定書
★企業ロゴフリップ写真データ　（２種類①災害支援 NGO より②被災地福祉作業所より）
★古着 de ワクチン能登応援パッケージ 100 キット
★企業研修・貴社社員被災地ボランティア活動受け入れ　（災害 NGO 結と共に数日間支援活動）
★貴社スポンサー名による被災地ギャラリー開催　（障がい者アート協会）
★貴社スポンサー名による避難所・仮設住宅での体操教室　（専属パーソナルトレーナー弊社にてご用意）
★共同募金会より感謝状（ご希望があれば簡易的贈呈式実施可能　※諸条件有り）
★災害 NGO 結よりお礼状　★障がい者アート協会より感謝状　★専属トレーナーより感謝状
★障がい者アート協会アーティストよりお礼状　★仮設住宅体操参加メンバーよりお礼状
★キット製作福祉事業所（えもる）よりお礼状



企業は古着 de ワクチンで能登の復旧・復興を支援することができる

環境と福祉に貢献する「古着deワクチン徳得事業」

日本リユースシステムは、創業以来「三方義し」を企業理念に掲げ、未来の子ども達が安心して生活できる持続可能な社会を実現するため、事業を通して社会問題を解決するソーシャルビジネスを展開している。同社では、持続可能な仕組みでビジネスと社会貢献を連動させる事がＳＤＧｓであると定義し、さまざまな事業を展開している。その代表とも言えるのが、「古着deワクチン」事業だ。

古着deワクチンは、一般家庭や企業・団体に眠る「捨てるのには忍びない」衣類や服飾雑貨の片づけやリユースを通して、開発途上国での雇用創出や、世界の子ども達の福祉などに貢献するサステナブルなサービスとなっている。

２０１９年には、持続可能なビジネスモデルと長年の社会貢献が評価され、「第３回ジャパンＳＤＧｓアワード」で特別賞（ＳＤＧｓパートナーシップ賞）を受賞した。同事業では、ポリオ（小児麻痺）で苦しむ子どもが１人もいなくなる世界を目指している。国内外にわたるこの取り組み全体で、直近では累計８００万人分のワクチン寄付を目標にさまざまなパートナーと連携して推進している。

古着deワクチンを利用する顧客には、国内の福祉作業所で製作した「専用回収キット」を販売。同事業により、障がいを持つ人々の安定した仕事や自立支援に繋がっている。集まった衣類等は、開発途上国での雇用やビジネス創出のために、カンボジア等へ輸出し、現地店舗などでリユース販売している。

カンボジアの古着deワクチン直営センターでは、ポリオによる後遺症や障がいを持つ人を積極的に雇用し、仕事を通して支援を受ける側から支援する側へ自立できるようサポートしている。

世界の子ども達の命を救うために認定ＮＰＯ法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会」を通し、ポリオワクチンを寄付している（１キット＝５人分のワクチン）。これまでに累計で７７２万４３３３人分のワクチンを寄付した（24年10月31日時点、関連事業含む）。また、これまでに累計で５７６６万９３００着分の衣類を再利用し（同）、廃棄物と廃棄時に発生する温室効果ガスの削減に貢献している。年齢や性別、国、個人や企業（団体）を問わずさまざまな人に「衣類のお片づけ」というアクションを通して、社会で起きる問題を知る機会を提供するとともに、連携してＳＤＧｓのゴール達成に貢献している。

「使わなくなったけど愛着があり、捨てるのは忍びない」と大事に保管していた衣類を古着deワクチンを使って有効活用してもらいたい、という想いで商品を購入する顧客が多いことから、集まる衣類等は状態の良いものが多く輸出先の海外諸国からは非常に好評を得ているという。

開始から10年を迎えた21年、新たな挑戦として日本から送られた大切な衣類等を販売・選別・再輸出するための直営センターをカンボジアにオープンした。

このセンターでは、地元の顧客への販売、カンボジア国内の小売業者等への卸売り、世界中へ再輸出するための選別業務を一挙に担っており、１週間で約５万点の衣類が入れ替わる仕組みで、世界一の衛生環境、美しさを兼ね備えた世界初の事業展開に挑戦している。

センターで働く現地スタッフは、ポリオによる障がいを持つ人を中心に雇用している。また、小売りで衣類等が１点売れるごとに、１ポリオワクチンが寄付される仕組みを設けることで、障がいを持っていても元気に働き、同センターの仕事を通して自立し、支援を受ける側から支援をする側になり、持続的な支援の輪をさらに広げることを目指している。

「第３回ジャパンＳＤＧｓアワード」で特別賞（ＳＤＧｓパートナーシップ賞）を受賞

カンボジアの直営センター。集められた衣類は状態が良く好評を得ている

さまざまな形で能登を応援　BEST ACTION 被災地支援に向けたこれまでの主な取り組み

【３月】

●復旧・復興活動に賛同し１００万円を寄付

災害ＮＧＯ結は、１月２日から現地入りし行政や各災害支援団体と連携を取り、情報収集・支援活動を行っている。「いち早く災害発生地へ駆けつけ現場を走り回り、情報収集・発信を通じて、支援・復興が円滑に行われる環境を整える。」をスローガンに活動しており、その趣旨に賛同し寄付を実施。

●石川県七尾市鵬学園高等学校へ震災被害の復旧・復興を願い１００万円を寄付

能登半島地震で鵬学園はかつてない大きな被害を受けた。具体的には校舎の一部・体育館やテニスコート・グランド・調理施設や設備、周辺の液状化現象による陥没等、多数の被害が確認されいる。学校に通う生徒たちがいち早く、普段の環境を取り戻し学業に専念できることを願い寄付を行った。

●石川県七尾市へ物資支援活動

・ＮＧＯ拠点小牧集会所（10㌧車）
　二次災害予防アイテム（ヘルメット・防災リュック・食料・おむつ・トイレ等）
・七尾市商工会議所（10㌧車）
　飲料（水・お茶・ジュース）
・福祉作業所えもる（10㌧車）
　二次災害予防アイテム（ヘルメット・防災リュック・食料・おむつ・トイレ等）

【５月】

●石川県七尾市・七尾サンライフプラザにてイベントを開催

５月11日、石川県七尾市七尾サンライフプラザにて特別講演会や本マグロ解体ショーなど被災地の人々に元気になってもらうための「義善催」を開催した。元気があれば何でもできる「義」善催と名付けたイベント。開催目的は復旧や復興など大きなことはできなくても、「私たちのできること」から始めて「私たちにしかできないことをみつける」を大切に今でも避難所生活を余儀なくされている人々や大変な思いをしている人々へこの日のこの時間だけでも元気になってもらいたい、楽しんでもらい笑顔溢れる時間にしてもらいたいという想いで開催に至った。来場者は約１２００人に上った。

〈多希飯会（たきめしかい）〉

本マグロ解体ショー・本マグロ丼・本マグロあら汁の提供を行った。当日は古着 de ワクチン運営事務局からカンボジア国・モンゴル国からもスタッフが来日し、被災地の人々と交流した。用意した１０００食分は全て提供した。

〈身体が資本体操〉

避難所生活を余儀なくされている人々は、なかなか身体を動かすことも難しくなる。少しでも気持ちと身体がラクになれるストレッチやタオルだけでできるリラックス呼吸方法等をパーソナルトレーナー指導のもと、一緒に体操した。

〈障がい者アート展〉

能登への応援をテーマに約 40 作品を展示した。来場した人々は一つひとつ作品に対するメッセージなどを読み、興味深く鑑賞していた。元気をもらった、勇気が湧いてきたというコメントも寄せられた。アート作品は七尾市の市民と七尾サンライフプラザへ寄贈した。

〈災害支援のプロによる特別講演会〉

テーマは災害支援のプロが教える防災に関する知識や心構えについて。実際今回被災した人々が話を聞き、講演終了後には災害ＮＧＯ結代表の前原氏にたくさんの人が質問する姿が目立った。避難所生活をする人や、地元の高校生や中学生と幅広い年齢層の来場があった。

【７月】

●千羽復興応援ツール〈鶴〉を石川県七尾市の福祉作業所へ贈呈

新たな支援の形として、千羽復興応援ツール〈鶴〉を考案し贈呈式を実施した。考案のきっかけは応援パッケージの支援対象である福祉作業所をさまざま訪問する中で、各福祉作業所の被害状況も大小異なり、必要とするモノやコトもまるでバラバラであることが判明。そこで良い方法がないか考えた結果、やはり現金が一番役に立つという結論に至った。しかしそれでは支援した人たちの「想い」まで届かないと考え千羽復興応援ツール〈鶴〉を創り出した。第一号として同パッケージ製作処でもある石川県七尾市の福祉作業所「えもる」に千羽復興応援ツール〈鶴〉を贈呈した。

【８月】

●報道写真集付き能登応援パッケージ販売開始

支援の形を模索する中で、被災地に物資支援やイベント開催などの活動を行ってきた中で、北國新聞社出版「令和６年能登半島地震特別報道写真集」を知り、現地の様子をより多くの人に知ってもらい風化させないこともまた一つの支援のあり方だと考え、報道写真集付きパッケージを１００キット販売した。専用回収キットの制作・発送は被災地のＢ型就労支援福祉作業所「えもる」が担当し、オリジナルパッケージを購入者に届けた。

【９月】

●「身体が資本体操」「障がい者アート作品展」を毎月開催

５月七尾市で実施した「義善催」で、住民から大好評を得た「身体が資本体操」「アート作品展」を輪島市 / 七尾市で毎月継続開催している。

【10 月】

●石川県輪島市で水害被害に遭った「もとやスーパー」へ支援物資提供

10 月 30 日ベストアクションチームは「もとやスーパー」へ２㌧車１台の支援物資提供（保存食品・赤ちゃん用品・ティッシュ等生活消耗品）を行った。

震災から復旧・復興に取り組む最中の９月、今度は豪雨災害が発生し、輪島市を訪れた際町唯一のスーパーであり住民の人々の心の支え、コミュニティであったもとやスーパーが大きな被害に遭った知った。もとやスーパーは輪島市町野町に位置しており、地震発生時から１日も休まず営業を続けていた。しかし９月の豪雨で、濁流があっという間に町を飲み込み、町唯一のもとやスーパーは２㍍の浸水被害となり休業を余儀なくされた。

地震からやっと復活の兆しが見え始めた矢先の水害であり、もとやスーパーのオーナーである元谷社長も落胆していたが、強く前を向いて奮闘されている姿に、ベストアクションとしてなにか支援できることはないかと話し合いをした。

その結果、ベストアクションから物資支提供を行い、住民に安価で販売してもらい小売業としての機能をいち早く取り戻すことが、町の再生と地域の人々にとって良いことだと判断した。さらに、再オープンに向けて資金面のサポートと住民に寄り添った心のケアができるよう輪島市でのイベントも計画中だ。

【11 月】

●「もとやスーパー」復活を記念して「義善催」を開催

11 月 30 日にベストアクションチームは「もとやスーパー」の復活を祝して、「義善催」を主催。復活オープンセレモニーでは、もとやスーパーの関係者や地区の人たちが集まり、地震や豪雨で亡くなった人たちに 1 分間の黙とうをささげ、もとやスーパーへの千羽復興応援ツール〈鶴〉の贈呈式を実施した。また、「身体が資本体操」「障がい者アート展」を店内スペースにて開催した。

９月の水害で被害を受けたもとやスーパーの営業再開を応援

避難所生活を余儀なくされている人々と「身体が資本体操」

能登を応援する「障がい者アート協会アート展」を開催

JUST IN TIME BEST ACTION
まごころプロジェクト運営事務局
お問合わせ先
0120 - 662 - 616
magokoro@nrscorp.jp
★最新情報・詳細はホームページをチェック
ベストアクション　能登　法人　検索